

## 第5回ノーバディズ・パーフェクトプログラム総括

植田 智<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

本学においてノーバディズ・パーフェクトプログラム（以下、NPプログラムと略）を開催するのは今回で5回目であった。心理学科のソシオ学校活動として地域にも定着してきたこともあり、今後も継続的に実施することを明確にするため、昨年度より学科予算に組み込んでの活動となっている。

また、例年通り、実施主体は心理教育相談センターと心理学科の共催とし、安佐北区と財団法人ひろしまこども夢財団より、この活動の趣旨にご賛同いただきご後援をいただくことができた。

### 2. NPプログラムについて

NPプログラムについての解説は昨年度の紀要（植田，2011）を参照されたい。概略として、このプログラムはその名の通り「はじめから一人前の親などいない。皆まわりからの助けを得ながら親になっていく」との考えのもとに、カナダで作成された0歳から5歳の乳幼児を持つ母親向けの支援プログラムであり、毎週1回の計8回で構成される。事前面談をもとに設定された共通の悩みや不安などのテーマについて、ファシリテーターの支援のもと、参加者同士で不安の軽減や問題解決の糸口を見つけるとともに、関係づくりをめざすものである。

そのことを可能にするために重要となるのが、完全クローズドの安心してくつろげる空間づくりと、そのための3部署のスタッフの連携である。

### 3. 実施概要

- (1) 主 催：広島文教女子大学人間科学部心理学科・心理教育相談センター
- (2) 後 援：安佐北区・財団法人ひろしまこども夢財団
- (3) 開催日：2012年1月25日・2月1日・8日・15日・22日・29日・3月7日・14日（いずれも水曜日）、全8回

(4) 場 所：広島文教女子大学心理教育相談センター

(5) 参加者：13名（0～5歳の子どもを持つ母親）  
子どもは11名（0歳6カ月から3歳6カ月まで）

(6) スタッフ（敬称略）

ファシリテーター：金子留里，濱田さつき（ともにNPジャパン認定ファシリテーター），2名

託児スタッフ：坂本牧子（代表），井上正子，中田珠光，藤田弘香，4名

学生託児スタッフ：小下いずみ，佐々木麻美，谷岡瞳（大学院教育学専攻1年），大利幸恵，重廣奈緒子，岡野久美子（4年），竹本理佳子，水津舞弥，内田果歩（2年）

※臨時学生スタッフ…直地香織（大学院教育学専攻2年），宮本志津香（4年） 計11名

運営スタッフ：植田 智，小早川久美子，新見直子，木本明日香，平原明日香，5名

### 4. 第5回NPプログラムの特徴

(1) 心理学科「ソシオ学校」活動としてのNPプログラム

昨年度同様、今回のNPプログラムも子育て支援という地域貢献と教育活動の2つが両輪となった「ソシオ学校活動」として位置づけられた。学生たちのNPプログラムへの関与度を高めるため、募集チラシの作製や発送，参加者名簿の作成などの事務的業務を学生たちに任せた。これにより、地域貢献活動についてのノウハウやそれにかかわる人々の思いを理解することを狙いとした。

関与度を高めるもう一つの手段として、NPプログラムの意義や自分たちの位置づけを明確にするために、事前講習会において託児方法のみならず、プログラムそのものについての研修も行った。

(2) 参加者減少による日程変更

年度当初は、例年通り10月初めから12月にかけての開催を予定し、募集を進めてきた。しかし、今回はプログラム実施可能な最低参加者数（8名）に達しなかつた。

<sup>1)</sup> 広島文教女子大学人間科学部心理学科科長

ったため、やむを得ず1月下旬からの開催に延期した。雪の状況が心配されたが、幸い天候に恵まれ、全日程を予定通りに進行することができた。

10月の募集で参加者が集まらなかった原因として、広島県内においてNPプログラムが定着し、予算の執行時期も絡んで9月から10月にかけて多くの団体が開催するようになったことが挙げられる。

また、これまでは公民館や福祉事務所等、関係機関へのチラシとポスター配布が広報の中心であり、一人一人の母親に対するより積極的な広報ができていなかった。今後は、定期健診や各種子育て支援団体など、より直接的に母親に情報が届くような広報のあり方が必要になるものと考えられる。

#### 5. おわりに（謝辞）

今回のNPプログラムは、参加者減少による日程変更を余儀なくされた。広報上の課題はあるものの、一方で、この時期に行うことで、これまでの「ソシオ学

校」としての取組みの課題であった授業時間をほぼ回避することができた。開催時期に関しては一長一短があり、どの時期に実施することがより大きな効果を挙げるかについて、今後検討していく必要がある。

最後に、ご後援いただいた安佐北区および財団法人ひろしまこども夢財団の皆様の形だけではない数多くのご支援、本学教職員の多大なるご協力、ファシリテーターや託児スタッフの皆様の労を厭わぬお働き、そして参加してくれた学生たちの誠実さと責任感に支えられて、大過なくプログラムを終了することができた。

ご関係の皆様方に、紙面を借りて深く感謝の意を表します。

#### 引用文献

植田 智 (2011). 第3回ノーバディズ・パーフェクトプログラム総括 広島文教女子大学臨床心理学研究, 1, 65-66.